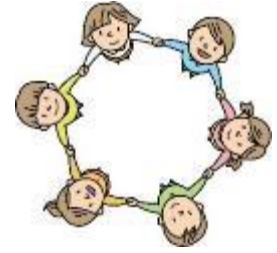




柏原市立柏原小学校



# 「かししょう」っ子

～「深く学ぶ子・ともに生きる子・最後までがんばる子」～

令和2年3月 第15号  
柏原市立柏原小学校  
校長 中平 好美

## 令和元年度 学校教育診断票 結果について

1月末に実施しました学校教育診断にご協力をいただき、ありがとうございました。

同様の内容を含む学校生活アンケートを児童にも実施し、このたび、両調査結果がまとまりましたので、お知らせします。学校教育診断票については、今年度、項目の整理や文言の見直し等を行いましたので、単純に比較できないものもありますが、昨年度の同内容項目と比較し、分析することで、今年度の取組みを振りかえり、今後の学校運営にいかしたいと考えます。

## 保護者アンケートより

(回収率 96.4%)

「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を肯定的評価とし、その合計値(%)をもって昨年度と比較しています。5%以上の増減があった項目に、↑↓をつけています。

【教育活動に関すること】		H30	R1
1	学校が楽しいと言っている。	89.0	90.3
2	授業が楽しくわかりやすいと言っている。	75.0	82.2 ↑
3	体育大会・校外学習などの学校行事や児童会活動が楽しいと言っている。	94.3	93.6
4	教育方針や活動の様子などを学校だより(校長室通信)などでわかりやすく伝えている。	85.8	87.3
5	学習内容、進度、学年・学級の様子など懇談・学年(学級)だより・ホームページなどで知ることができる。	72.7	70.8
6	通知表「あゆみ」などをとおして、子どもの学力や努力を適切に評価している。	83.7	91.9 ↑
7	子どもに、たくましい体力やねばり強さを育てようとしている。	—	67.4
8	社会ルールを守る態度や子どもの間違っただ行動について、指導をしている。	81.4	82.4
9	子どもに、生命を大切にすることを育てようとしている。	81.9	77.9
10	集団づくりなどをとおして、自分を大切に他人を思いやる気持ちを育てようとしている。	79.7	82.8
11	体験的な活動を取り入れたり、外部人材(ゲストティーチャー等)を取り入れたりしている。	53.7	59.5 ↑
【学校経営に関すること】			
12	台風などの緊急時の対応について、子どもや保護者に知らせている。	97.3	97.1
13	学校の施設・設備は、学習環境面でほぼ満足できる。	49.7	69.8 ↑
14	防災や防犯、事故防止に配慮している。	79.9	83.8
15	保護者が授業などを参観する機会を設けている。	97.3	98.1
16	子どもの学習や生活、体のことなどについて、保護者の相談に応じている。	81.3	87.0 ↑

【家庭生活に関すること】		H30	R1
1	子どもの良いところをほめている。	92.4	92.4
2	家の手伝いをしている。	74.9	74.2
3	子どもの学習する時間をきちんと取っている。	77.8	72.2 ↓
4	ゲーム・携帯電話などをする時間をきちんと決めている。	—	64.0
5	きまりや社会のルールを守ることの大切さを教えている。	98.9	97.1

※ **【教育活動に関すること】** では、微増ではありますが、概ね向上しています。

とりわけ、**2.「授業が楽しくわかりやすい」**では、7.2 ポイント増加しました。今年度、精力的に校内研修や研究授業、実践発表会等に取り組んできた成果を感じています。ただ、昨年度より向上したとはいえ、約15%の児童が「あてはまらない」と回答していることは課題であり、すべての子どもが「楽しくわかりやすい」と感じる授業づくりに向け、一層の努力が必要だと考えます。

**6.「通知表「あゆみ」などをとおして、子どもの学力や努力を適切に評価している。」**については、今年度、通知表の工夫だけではなく、適切な評価ができていどうかをお尋ねする文言に修正し、昨年度より8.2 ポイント上昇しました。日頃から子どもの頑張りを捉え、引き続き、適切な評価に努めたいと思います。

**7.「子どもに、たくましい体力やねばり強さを育てようとしている。」**は、今年度の新たな項目なので、昨年度と比較はできませんが、「最後までがんばる子ども」は本校のめざす子どものひとつとしてこれまでから大切にしてきました。マツト、とびばこ、マラソン、なわとびについては、期間を設定して学校全体で取り組み、今年度については体育の授業でサーキットトレーニングやプールバー（棒状のスポンジ）を使った体操などに取り組んできましたが、肯定的評価は67.4%でした。この項目では「わからない」とする回答が15.6%あったため、子どもの変容や子どもが感じる達成感などをしっかり把握し、積極的に保護者の方にもお伝えしていく必要があると感じています。

**9.「子どもに、生命を大切にする心を育てようとしている。」**について、昨年度のアンケートには、「社会のルール」についてもこの項目に含んでいましたが、「生命尊重」を特化させたく、今年度は単独の内容としました。肯定的評価が77.9%と昨年度から4ポイント減少していることは大きな課題です。道徳の授業でも「生命尊重」について学習を進めていますが、すべての教育活動や普段の生活から、もっと子どもたちの心に響かせなくてはと考えます。

**11.「体験的な活動を取り入れたり、外部人材（ゲストティーチャー等）を取り入れたりしている。」**の肯定的評価は、59.5%とそう高くはありませんが、昨年度に比べると、5.8ポイント上昇しました。子どもたちの発達段階や学習活動を広げるためにも、座学だけではなく体験的な活動は重要であり、専門性を持ったゲストティーチャーの存在はとても貴重です。この項目についても「わからない」の回答が23.2%もあったことから、引き続き、情報発信に努めたいと思います。

※ **【学校経営に関すること】** においても、ほぼ横ばいか、全般的にポイントが上昇しています。

**13.「学校の施設・設備は、学習環境面でほぼ満足できる。」**の肯定的評価は、昨年度から20.1ポイント上昇しました。これは空調工事が今年度中に完成したことが大きな要因だと考えます。老朽化の進む校舎施設には、まだまだ課題は残りますが、学校の現状を柏原市教育委員会にも伝えながら、引き続き、環境整備に努めていきたいと思ひます。

**16.「子どもの学習や生活、体のことなどについて、保護者の相談に応じている。」**を学校経営に位置づけました。今年度の肯定的評価は、87.0%となり、昨年度から5.7ポイント上昇しました。今年度は、柏原東小学校に設置されている「通級指導教室」の巡回指導やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどでチーム体制を組み、保護者の方の相談にこたえるべく取り組みを進めてきました。何かあれば、いつでもご相談ください。



令和元年度「柏原市はぐくみテスト」各学年の状況と課題について

12月13日(1年生)・14日(2年～6年)に実施しました「柏原市はぐくみテスト」の個人の結果については、2月末に個票を配付させていただいたところです。各学年の状況と課題を下記のとおりまとめました。調査結果のデータについては、国語・算数の知識・技能の各領域について分析できますので、正答率だけに着目することなく、課題だと思われるところを分析し、授業改善に生かしていきたいと思えます。

	国語	算数
1年	全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況。文章を書く内容では、全国平均を上回っている。引き続き、家庭でも子どもたちの書く意欲を励ますことがお祈りしたい。一方、「はなしをききとる」問題に課題があるといえる。ふだんから、話す人の方を見て聞く、作業を中断して聞くなど意識を向けて聞くことに気を付けていきたい。	全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況。その中で、「20までの数」「ひきざん」の学習で課題があるといえる。答えが10までの足し算引き算、繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算の計算が遅くなく正確にできるように、時にカードの順番を変えるなど、引き続き4つのカードの練習に力を入れていきたい。
2年	正答率は全国平均を下回った。活用の問題に関してはおおむね良好な正答率。文章を書く内容については目標値をこえることができた。一方で「漢字を書く」、「話を聞き取る」「説明文を読み取る・説明する」に特に課題が見られる。日々の漢字の練習や授業の中での「聞く」や発表を大切に漢字の定着と聞く力・話す力を身につけさせたい。	正答率は全国平均を下回った。活用の問題に関してはおおむね良好な正答率。とくに掛け算はよくできていた。しかし、どの領域においても課題が見られる。普段の授業を大切にしたい。また計算は定着するまで繰り返し、長さ、水のかさ、数量関係においては授業で学んだことを復習して、基礎基本をしっかり身につけさせたい。
3年	正答率は全国平均と同程度であった。その中で、漢字の読み書きは正答率も高く、定着していることが感じられる。一方で説明文・物語文を読み取る問題は、全国平均を下回り、3年生全体の課題であると考え。読書など読む活動を大切に「読む力」をつけさせたい。	正答率は全国平均と同程度であるが全体としてやや上回っていた。その中で、掛け算やあまりの数の理解、立てた式の理解の基礎的な部分での間違いや、道のりや長さの文章問題の理解など、定着しきれていない部分が今後の課題であると考え。習った部分の復習など振り返る時間も大切だと感じた。
4年	国語を見ると、全国平均を下回っている。しかし、活用はおおむね良好な状況。問題の内容別に見ると、特に「作文」に課題があるといえる。「書くこと」は、「書き方」を理解すると、自分の考えや思いを表現できるようになる。見本文をまねして書くことも大切。条件のある作文に、積極的にチャレンジさせたい。	算数を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況。「わり算」などの基礎的な学習は定着してきているといえる。問題の内容別に見ると、「折れ線グラフ」に課題があるといえる。『問いの意味を理解し、どこを見て、どんな数値や傾向をもとに判断するのか』を、グラフなどの資料の活用を通して考え、活用力を身につけさせたい。
5年	国語を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況。ただ、活用に課題があるといえる。問題の内容は、「物語の内ようを読み取る」と「言葉の学習」に課題があるといえる。たくさんの本とふれあうことで読む力を身につけるとともに、ていねいな会話を心がけ、「言葉の力」を高めていきたい。	算数を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況。問題の内容は、「整数のなかま分け」に課題があるといえる。以前にした学習でも繰り返し学習して確かなものにしていきたい。
6年	国語を見ると、ほぼ全ての領域で全国平均を上回っており、たいへん良好な状況。特に、「書く」領域の作文をする問題では、全国平均点を9点ほど上回る結果となり、自分なりの文章の書き方の習得、書くことへの抵抗の軽減などが見られた。一方、漢字を読むことや、「言葉」の領域の問題は、全国とほぼ同程度の結果。読書の習慣付けなどを通して、語彙を増やしていきたい。	算数を見ると、ほとんどの領域で全国平均を上回り、たいへん良好な状況。特に、「面積・体積」や「対称な図形」の単元で、全国平均を10点以上も上回る結果となり、定着が見られた。一方、「文字と式」、「比の値」、「数量関係」の単元は、全国とほぼ同程度の結果。普段の授業でも、苦手とする児童が多いと感じる。自主的な反復練習を繰り返し、定着を目指したい。